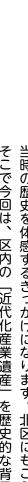
王子に洋紙産業が発祥した理由は、渋

(画像は渋沢史料館)

-氏の決断に依るところが大きか

区内に残る日本の近代化の歴史を巡って

〜北区の近代化産業遺産、歴史的建造物が残る風景〜



当時の歴史を体感するきっかけになります。北区にもこうした「近代化産業遺産」がまちの身近なところに複数存在しています。 自分たちの身近な場所で見られる施設が、当時の産業にとって重要な役割を担っていたということを知ることで 中には世界遺産として登録され、多くの人が見学に訪れるところもあります。

「近代化産業遺産」とは、産業近代化の過程を物語る存在として継承されている、数多くの建築物、

機械、文書を国が認定したもので、

そこで今回は、区内の「近代化産業遺産」を歴史的な背景とともに紹介します。



北区の「近代化産業遺産」とは

登録され話題となったことも記憶に新 遺跡とその文化的景観」が世界遺産に また、平成19年に島根県の「石見銀山 育科学文化機関)の世界遺産に登録さ としては初めてユネスコ(国際連合教 絹産業遺産群」が日本の近代産業遺産 しいところです。 れ、大きな盛り上がりを見せました。 昨年6月、群馬県の「富岡製糸場と

継承されている数多くの建築物、 も国の「近代化産業遺産」として認定 に共通点があります。それは、どちら 産業近代化の過程を物語る存在として されているということです。 この2つの場所は世界遺産登録以外 国は、平成19年度及び平成20年度に、

> されています。 史の観点で行われ、「近代化産業遺産 文書を「近代化産業遺産」として認定 群33」「近代化産業遺産群 続33」の計 しています。その認定は地域史・産業 66のストーリーで取りまとめられ公表

時の近代化の様子を身近に感じること 水・砂防の歩み」の2つのストーリ の中で、計6施設が「近代化産業遺 これらの施設は都心でも珍しく、 北区では、「製紙業の歩み」と「治 の認定を受けています。 当

ています。 ができる歴史的にも貴重な場所となっ





製紙業の歩み

王子に製紙業が誕生した理由

所蔵物が国の認定を受けています。 群」として、渋沢史料館、 製紙業の歩みを物語る近代化産業遺産 国内自給をめざし北海道へと展開した 京工場 東書文庫、国立印刷局王子工場及び東 北区では、平成19年度に、 (旧滝野川工場) の5つの施設 紙の博物館 「洋紙

いわば、 祥の地」といえます。 立・経営に関わった渋沢栄一氏が、 て紙の大量生産を考え、 治初期に新聞や雑誌等の必要性を感じ 明治時代以降、多種多様な企業の設 (紙を作る会社)を設立しました。 北区王子は我が国の「洋紙発 王子に抄紙会 明

適していました。 あったため、 用水や石神井川は良質で水量が豊富で います。 まれていたことが大きな理由となって きたのは、 もともと、 当時、 この地が豊富な水資源に恵 抄紙会社が北区王子にで 製紙業を行うには条件が 王子周辺を流れる千川

船で運搬できたこともそのひとつです また、工場で使用する原料や製品を

製紙業を感じる施設や資料

渋沢栄一氏の旧邸

「曖依村荘」

跡

(現

を紹介する博物館です。

昭 和 57

年に、

紙の博物館、 渋沢史料館

的な経緯などを知ることができます。 は こうした近代産業の始まった歴史 の博物館」 や 「渋沢史料館」 で

集・保存 古今東西の紙に関する資料を幅広く収 は製紙記念館)。 前に集めていた資料をもとに昭和25年 に設立された博物館です 合博物館として知られています。 「紙の博物館」は、 ・展示する世界有数の紙の総 和紙・洋紙を問 旧王子製紙が戦 (当時の名称 わず、

ゆ かりのある渋沢栄一氏の事績と思想 一渋沢史料館」は製紙業でこの地に

> び 等で開館されました。 注目され続ける渋沢栄一氏を知り、 (書庫)」 は本館を増設して、諸資料の展示によ た登録博物館で、旧邸内に残された 在北区飛鳥山公園の一 「晩香廬 考える場所となっています。 日本の資本主義の父として今なお (現在は国指定重要文化財 (洋風茶室)」と 平成10年3月に 部 に設立され 「青淵文庫 学

国立印刷局 王子工場、東京工場 滝野川工場) 旧

書の製本会社が事業拡大のために北区 に移転してきました。 や切手の製紙工場を設立したり、 抄紙会社ができてからは、 国がお札 教科

歴史的背景を学ぶことができます。 と切手の博物館」では、お札や切手の 東書文庫 国立印刷局 東京工場 は現在、 王子工場に併設する施設 工場見学を休止していま (旧滝野川工 「お札

国の重要文化財に指定されています。

これらの「近代化産業遺産」をめぐ

ができる (画像提供 紙の博物館)

「紙の博物館」では和紙・洋紙を問わず紙の歴史を知ること

を所蔵し、そのうち7万6千点余りが 設立された教科書図書館です。鎌倉時 の創立25周年を記念して、昭和11 から現代までの教科書約15万5千点 東書文庫 は、 東京書籍株式会社 年に

子の歴史の流れを知ることができます。

ることで、

洋紙発祥の地である北区王

国立印刷局王子工場内にあ る「お札と切手の博物館」 (画像提供 国立印刷局)



「渋沢史料館」はこの地に ゆかりのある渋沢栄一氏の 事績と思想を紹介 (画像提供 渋沢史料館)



教科書の歴史と内容を知る ことができる「東書文庫」

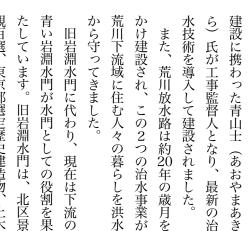
46

北区

荒川放水路・旧岩淵水門

が国の認定を受けています。 産群」として旧岩淵水門、荒川放水路 都市生活や産業発展の礎となった治 水・砂防の歩みを物語る近代化産業遺 平成20年度に「国土の安全性を高め

つて「荒ぶる川」として氾濫を繰り返 荒川 (下流は現在の隅田川) は か



年

観百選、 学会「日本の近代土木遺産」にも選定 されています 青い岩淵水門が水門としての役割を果 東京都選定歴史建造物、 北区景 土木

治水の歩みを知る

(通

近代化産業遺産と

像もあります。 た時、 称 ティアによる館内案内も行っています。 がわかるコーナーや川で洪水が起こっ ていて、館内には、 荒川に関するさまざまな情報を発信し か20地点でシミュレーションした映 水門の近くには荒川知水資料館 アモア (amoa)) があります。 、流域の町がどのように浸水する 土日祝日には、 荒川放水路の歴史 ボラン



「治水・砂防の歩み」

「近代化産業遺産」の今後

のガイドマップには、

歩いて出会える

ツアーイベントを計画

から8年の歳月をかけて、パナマ運河

していました。

旧岩淵水門は大正5年

コースとともに紹介されています。 近代化産業遺産ガイドマップ」に観光 施設とともに、北区が発行する「北区 ます。旧岩淵水門は北区王子の5つの 北区王子の5つの施設については、 を知るイベントとして好評を博してい でより深く歴史を知ることができます。 ども残されており、それらを巡ること 係するさまざまな歴史的建造物や碑な 北区には、「近代化産業遺産」に関 「北区産業遺産めぐりスタンプラリ を開催し、身近にある地域の歴史 毎

> 代化産業遺産に対する盛り上がりは今 沢史料館では産業などに関するシンポ きるよう検討していきます。また、 を位置づけて、北区の産業遺産の歴史 じることができます。 ジウム・講演会を開催しています。 や技術について楽しんで学ぶことがで 名品を味わいながら近代化の歴史を感 北区の名品も掲載されており、北区の 「産業遺産を楽しむプログラムづくり」 区では「北区観光振興プラン」に 近 渋

後も高まっていきそうです。





区では近代産業遺産めぐりスタンプラリ

北

 $\overline{\mathbf{X}}$